

大和地区

第2層協議体



幹部会の様子

団体名

大和地区支え合い協議会

スローガン

こえかけ・ふれあい・ささえあい

協議体の特徴

令和4年2月に第2層協議体を設置。

協議会は、大和地区社会福祉ネットワーク会議専門部会（地区振興協議会、区長会、地区社会福祉協議会、民生児童委員、長寿会、大和四つ葉会（ボランティア団体）、スポーツ協会、食生活改善会）によって構成される。

令和5年に実施した高齢者ニーズ調査から見えた地域課題「生活支援」について、生活支援の提供を大きな目標として協議を進め、令和8年4月に「大和おたすけ隊」を設立し、生活支援の有償ボランティアを開始した。

また、社会参加への呼びかけや地区の情報を発信する広報誌「つながる」の定期発行とともに、令和8年4月から高齢者のデジタル活用を支援する「シニアスマホサロン@大和」、農業体験や各種イベントを通じ多世代交流やつながりづくりを目指す「大和みんなの小さなファーム」を開始した。

これまでの歩み

令和4年2月

大和地区支え合い協議会設立

令和5年1月

高齢者ニーズ調査を実施

令和6年4月

支え合いの地域づくりについて意識共有ポスターを作成し、大和地区内にて回覧

令和6年7月

広報誌「つながる」第1号発行

令和8年4月

生活支援「大和おたすけ隊」設立

令和8年4月

第1回「スマホシニアサロン@大和」開催

令和8年4月

「大和みんなの小さなファーム」設立

地区の情報発信ツール

広報誌「つながる」

- ❖ 地区の高齢者の社会参加を促進するため、地域で活動する団体を紹介するツールとして発行を開始
- ❖ 高齢者の暮らしに役立つ生活支援情報や、協議会の話し合いから生まれた活動も紹介している。



- ❖ 掲載したサークル団体への問い合わせや参加希望者あり。タイトル通り、「つながる」きっかけになっている。



暮らしのちょっとした 困りごとを助け合う

大和おたすけ隊

- ❖ 地区の高齢者が安心して暮らし続ける地域を目指し、住民同士で助け合う有償の生活支援ボランティア団体
- ❖ 地区の高齢者で支援を必要とする方を対象に、庭の草取り・草刈り・剪定、戸外清掃、ゴミ出し、簡単な修繕、話し相手等に対応（利用会員制）
- ❖ サポーター（ボランティア）は全て地区住民。若い世代にも参加を呼びかけ。



- ❖ 令和8年4月から活動を開始。少しずつ支援の依頼が入っている。
- ❖ 「困った時はお互い様」の気持ちで助け合うことにより、住み慣れた地域で安心して暮らしていける支え合いの地域づくりを目指す。



高齢者のデジタル 活用を支援

シニアスマホサロン@大和

- ◆ 高齢者のスマートフォン利用が急速に広がる一方で、基本操作への不安や詐欺対策・セキュリティへの心配等からデジタル活用力の向上を支援
- ◆ デジタルをきっかけに交流できる場として、お茶を飲みながら気軽に参加できるサロン形式に。
- ◆ 中学生以上の学生も講師として参加できる。



- ◆ 雑談やお茶を楽しみながら和気あいあいとしたサロン。グループラインを活用した交流促進で、孤立防止にもつながっている。
- ◆ 若い世代が地域参加する機会となり、多世代交流の場に。



農に学び、農を楽しみ、 農でつながる

大和みんなの小さなファーム

- ◆ 地区内の畑を借り、地区住民であれば誰でも参加できる共同利用方式の農園。
- ◆ 里山を使ったさまざまな体験活動（たけのこ堀り・梅もぎ・焼き芋・バードウォッチング等）も実施。



- ◆ 世代を超えて集う人がさまざまな形で関わることにより、地区住民がつながる場に。
- ◆ 収穫した作物は地区の福祉活動に利用。見守り訪問での活用等、高齢者の孤立防止やつながりづくりのきっかけに。

